



ROTARY CLUB OF

NARA—WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2469

2023. 3. 16

創立 1969年(昭和44年)12月13日

例会日 毎週木曜日18:00より

事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地

例会場 奈良ロイヤルホテル内

TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2022～2023年度
国際ロータリーのテーマ

2022～2023年度
地区のスローガン



「感動、感激、そして感謝」

国際ロータリー会長
ジェニファー E. ジョーンズ

RI第2650地区ガバナー
尾賀 康裕



霊山寺 十一面観音

会 長 渡邊 巖	副 会 長 吉村 信男	会長エレクト 中西 吉日出	直前会長 植野 洋志	幹 事 相澤 万裕子
会 計 東山 光秀	会場監督 加藤 又弘	理 事 福川 益則	理 事 寺田 信弘	理 事 安井 清悟
理 事 内藤 源美	会報委員長 金田 宗寛			

今月は 水と衛生 月間 です

第26回(2469回)例会プログラム令和5年3月16日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「ロータリーって何だろう」
3. 来訪者紹介
4. 出席報告
5. 会長の時間
6. ニコニコ報告・委員会報告・幹事報告
7. 卓話: 奈良県教育委員会人権・地域教育課
指導主事 竹中 基展様
「地域と共にある学校作りについて」
8. 閉会宣言 点鐘

第25回 (2468回) 例会報告 2023. 3. 9

ソング

「奈良西RCの歌」

来訪者紹介

島田 春樹 様 浄教寺 住職

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通 算 2468 回	42	5/8	18/34	16	59.0%
通算2466回修正	42	8/8	34/34	0	100.0%

会長の時間 (渡邊会長)

皆さん、今晚は。今週は、日中の気温も高くなり春の兆しがみられるようになってきました。また新型コロナ感染やインフルエンザ感染も減少し、人の流れもコロナ前に戻ってきています。野球の世界選手権であるWBCの日本チームへの期待や宇宙開発への日本の取り組みなど明るい話題がみられる一方、收拾のつかないウクライナ戦争、自然災害による社会的・人的被害、また中国・北朝鮮による不穏な軍事行動など懸念される問題も多々見られます。人間は太古から創造と破壊を繰り返しながら、少しずつ社会的・経済的發展を遂げてきました。先人たちが空想した製品や科学技術の発展した社会は人の知恵・創意工夫によってほぼ実現されています。しかしながら同時に自己保存のために他者を制圧・排除・粛清といった戦争・破壊といった行為も絶えません。これは人間の本質(動物的生存本能)が昔から変わらない、変われないからだと思えます。宇宙開発も進むでしょうが、これも各国による勢力争いの場になるのでしょうか。またこの先AIによる合理的な社会形成・支配が進むと、矛盾に満ちた人間はAIによって抹殺されかも知れません。世界絶滅戦争やAIによる人間社会抹殺が起こらないようにするのはどうしたらいいのでしょうか？難しい問題です。自然界そして人間にはすべて2面性があることを認識したうえで、自然社会全体がバランスよく、調和をもって生存できるようにと私は願っています。

さて報告事項ですが2021年11月入会の布崎会員が、会社人事で東京にご栄転になり、当クラブを3月末で退会されます。短い期間ではありましたが、奈良西RC、また奈良でのご活躍ご苦労様でした。今後も引き続きご発展をお祈りしております。後任新支社長の入会もよろしくお願いいたします。また今年度青少年奉仕事業の報告書、及びクラブ職業奉仕活動レポート・アンケートの提出のお願いが地区からきています。担当委員長よろしくお願いいたします。

さて今回はロータリーの歴史～その誕生と成長について述べましたが、今回はロータリーの基本理念についてお話しします。創成期のロータリー会員はロータリー創設後の10年で、後に「ロータリーの目的」として知られる基本理念を定めました。1921年には平和の進展が追加され、1989年から1995年にかけて男女差のない言語が用いられるようになりました。ロータリーの基本理念は、ロータリアン共通の目的や指針として、形づくられたものです。互いの

関係や行動の土台として、世界中のロータリアンがこれらの理念を大切にしています。

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通して、国際理解、親善、平和を推進すること

以上がロータリーの基本理念(目的)です。「4つのテスト」同様、会員の皆様、機会ある毎に確認してください。お願いいたします。

さて本日は浄教寺住職 島田春樹様をお迎えし、「フェノロサについて」というタイトルで卓話をお願いしております。島田様よろしくお願ひいたします。これで会長の時間を終わります。

ニコニコ報告

渡邊巖会長

昨日、本日と日中は初夏のような暖かさですが、朝夕は冷えるので、皆様体調管理にお気を付けください。さて、本日は浄教寺、島田春樹住職による卓話です。島田住職よろしくお願ひします。

吉村信男P会長

先日は誕生祝いありがとうございました。明日3月10日無事80歳を迎えることができます。総ての皆様、ありがとうございます。

中西吉日出会員、丸山佳映会員、川上顕慶会員

暖かい日が続く今日この頃です。花粉もたくさん飛んでいるようです。皆様体調管理にお気をつけください。

谷垣嘉輝会員、佃尚彦P会長、下村由加里会員、植野洋志P会長、東山光秀会員、小松玲子会員、加藤又弘会員

浄教寺住職 島田春樹様、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。

幹事報告 (相澤幹事)

例会変更情報は入口横に掲示していますのでご確認ください。

会員ご夫人の誕生祝

■3月生まれ■

川野隆祐会員夫人 長子様 3月16日生
津山初雄会員夫人 加代子様 3月29日生

皆様おめでとうございます



「フェノロサについて」

浄教寺 住職 島田 春樹 様



アーネスト・F・フェノロサ

明治21年（1888年）6月5日 講演

「奈良の諸君に告ぐ」

通訳 岡倉天心

於 奈良市上三条町18番地

浄教寺 本堂



* 奈良の諸君に告ぐ。 淨教寺本堂で明治 21 年にフェノロサ氏の大講演会

明治 21 年 (1888 年) 6 月 5 日淨教寺の本堂にて、午後 9 時から約 500 人の聴衆を前にアーネスト・F・フェノロサ氏の講演が岡倉天心 (覺三) さんの通訳により開催されました。

* 講演に至るまでの概略

フェノロサ氏は、1878 年夏に来日し、9 月から東京大学で哲学・経済学を教えました。来日後すぐに、仏像や浮世絵など様々な日本美術の美しさに心を奪われ、古美術品の収集や研究を始めると同時に、鑑定法を習得し、全国の古寺を旅しました。

やがて彼はショックを受けます。日本人が日本美術を大切にしていないことに。明治維新後の日本は盲目的に西洋文明を崇拜し、日本人が考える“芸術”は海外の絵画や彫刻であり、日本古来の浮世絵や屏風は二束三文の扱いを受けていました。

特に最悪の状況だったのが仏像・仏画。天皇や神道に“権威”を与える為に、仏教に関するものは政府の圧力によってタダ同然で破棄されていました。また全国の大寺院は寺領を没収されて一気に経済的危機に陥り、生活の為に寺宝を叩き売るほど追い詰められていました。財政難の地方では最初から寺領を狙って廃寺が行なわれるケースも多々あったそうです。

※廃仏毀釈 (はいぶつきしゃく) は、日本人の手で日本文化を破壊した最悪の愚行です。明治元年 (1868 年)、明治維新の直後に神仏分離令が發布され、各地の寺院、仏像が次々と破壊され、約 8 年間も弾圧が続き、全国に 10 万以上あった寺は半数が取り壊され、数え切れぬほどの貴重な文化財が失われました (薩摩では一時期全寺が潰される苛烈なものだったそうです)。

今では信じ難いですが、『阿修羅像』で有名な奈良興福寺の場合、寺領の没収と同時に 120 名の僧が神官に転職させられ、五重塔が 250 円 (値段には諸説あり) で売りに出されました。最終的には誰もいない無住の荒れ寺となってしまいました。五重塔は焼かれる直前に周辺住民が火事を恐れて阻止したといわれています。また、別の寺では政府役人の前で僧侶が菩薩像を頭から斧で叩き割って薪 (たきぎ) にしたという話もあるほど、仏教界は狂気染みた暴力に晒されました。

フェノロサは寺院や仏像が破壊されていることに強い衝撃を受け、日本美術の保護に立ち上がりました。自らの文化を低く評価する日本人に対し、如何に日本の芸術・仏教が素晴らしいかを事あるごとに強烈に訴えました。1880 年 (27 歳)、フェノロサは文部省に掛け合って美術取調委員となり、学生の岡倉天心を助手として京都・奈良で古美術の調査を開始しました。

こうした活動を通してさらに日本美術の魅力の虜になった彼は、1881 年 (28 歳)、滅亡寸前の日本画の復興を決意し、日本画家たちに覚醒を求める講演を行ないます。「日本画の簡潔さは“美”そのもの。手先の技巧に走った西洋画の混沌に勝ります」「日本にしかない芸術があるのです!」。西洋文明へのコンプレックスに支配されていた日本人はビックリ。新政府は日本が芸術の世界では一等国と勇気づけられ、フェノロサの演説を印刷して全国に配布しました。

1888 年 (35 歳)、岡倉天心は欧州の視察体験から、国立美術学校の必要性を痛感。そして日本初の芸術教育機関、東京美術学校 (現・東京芸大) を翌年開校し初代校長となり、フェノロサは副校長に就き、美術史を講義しました。(『日本人よりも日本美術を愛した男・フェノロサ』参考)

1888 年、奈良に来て、淨教寺の本堂で講演をしているものが次に示します講演要旨です。



フェノロサ



岡倉 天心

「奈良の諸君に告ぐ！」

大津昌昭著 『森川杜園の生涯』から

*フェノロサの講演(要旨抜粋) 明治二十一年(1888)六月五日 淨教寺 本堂にて

わたくしは昨年、欧州の国々に遊び、とくにイタリアの都、ローマにおいて古物を調べてまいりました。この度は日本のローマである奈良にまいりまして、こうしてみなさんにお目にかかりましたこと、まことに奇遇、光栄、と喜んでいる次第であります。

さて、美術と宗教に関しまして、奈良とローマは大変よく似ております。

徳川時代、人々は、奈良にいかなるものがあるのか知らないまま、三百年を経過してきたのでありますが、昔の人の思想がいかなるものであったかも知らず、古物の価値も知られなかったありさまは、あたかもローマの古物が土中に埋もれたままであった時代と変わりありません。近來となって、古物が探求され、奈良というところも知られるようになりましたが、もしもあの正倉院の御物がなかったならば、日本の古代文化がいかなるものであったか、ほとんど知られないままだったのではないのでしょうか。

それら日本の美術は、ヨーロッパのものとすこしも劣るものではありません。つまりアジアの仏教美術は、この奈良において、完全なるものに仕上がったのだと、わたくしは信じて疑わないのであります。

奈良は、宗教や美術のみならず、ほかにも多くのことで大陸と関係をもってきました。しかし、多くの国は滅亡し、あるいは戦乱を経て、もはや昔の面目を残していないのであります。当時の文物は、日本に存在するのみであります。

奈良は、じつにじつに中央アジアの博物館と称してよいのであります。

ですから、願わくば、ヨーロッパ人の真似ばかりせず、精神を高潔にし、日本人たることを嫌うような風潮が愚弄であることを世に知らせ、日本人として誇れる高い文化の創造を切望してやまないであります。

美術について申しますと、ただ器用さや精巧さのみを競わず、昔の人の高尚なる精神をとらえるよう努めるべきであります。

美術の本義とはいかなるものか。大意を申しますと、人の心にあるものを外に表すものであります。もし人間世界に美術がなければ、人間は機械的となり、人情は野卑におち、蒸気機関と同じありさまとなりますことは、歴史に明らかであります。美術は、いついかなるときも文化世界にけっして欠かせないもの、文化の要であります。

しからば日本人は、特有な高尚の思想を研磨し、もって世界に勝ちを制するべきだと思うのでありますが、しかし、完全に達するは、一朝一夕にしてなるものではありません。その機会を得るには、美術の教育にあります。しかし美術は機械ではありません。心の感得物であります。

美術の妙味は、規則をもって教えられるものでなく、名作を多く見て、自然と感得するところにあります。それには、名人の遺作を多く蒐集する博物館を設ける必要があります。

それには、模範なる古物が散逸しないよう、一か所に集めなくてはなりません。

最後にわたくしが奈良のみなさまに望みますところは、ここでみなさまが奮発し、率先して、日本美術復古の唱導者となってほしいことであります。

この奈良の古物は、ひとり奈良という一地方の宝であるのみならず、じつに日本の宝でもあります。いや、世界においても、もはや得ることのできない貴重な宝なのであります。ゆえにわたくしは、この古物の保護保存の大任は、すなわち奈良のみなさまが尽くすべき義務であり、その義務はみなさまの大いなる榮譽でもあると思うのであります。この古物の保護保存を考えずして、いたずらに目の前の小利に惑わされてしまっていては、まことにまことに惜しいことであり、それではこの奈良の価値をまったく理解していないのと同じになってしまうのではないかと、わたくしはそう考えるのであります。

アーネスト・F・フェノロサ 略歴

1853		0歳	フェノロサ誕生。アメリカ、マサチューセッツ州
1868	明治元年	15歳	(明治維新・神仏判然令(神仏分離令)による廃仏毀釈)
1870	明治3年	17歳	ハーバード大学入学。哲学
1874	明治7年	21歳	首席で卒業
1877	明治10年	24歳	絵画に興味を持ち、ボストン美術館、絵画学校入学
1878	明治11年	25歳	9月 来日 東京大学にて哲学・経済学を教える
1880	明治13年	27歳	8月30日 「法隆寺日記目録 抜粋」 「フェノロサ及び通事 岡倉覚蔵氏 登山 古器物拝観之事」とある。
1882	明治15年	29歳	狩野芳崖(ほうがい)との出会い
1884	明治17年	31歳	政府の宝物調査団に任命され、文部省職員となっていた岡倉天心と、 ビゲローと再び奈良や京都の古社寺を歴訪する。この調査の最大の目的は法隆寺・夢殿の開扉。(ビゲロー法隆寺に20円寄付)(明治19年の記憶違いか?) 8月27日28日興福寺調査
1885	明治18年	32歳	フェノロサはキリスト教を捨て仏教徒となった。滋賀・三井寺(園城寺)法明院にて受戒し「諦信」の法名を授かった。
1886	明治19年	33歳	法隆寺調査。欧米の美術界の現状を調査する為に渡航する。
1888	明治21年	35歳	5月28日30日31日6月1日 興福寺調査 6月5日 午後9時 浄教寺にて講演「奈良の諸君に告ぐ。」 6月8日～13日 法隆寺調査 6月16日 室生寺調査 丸山住職と意気投合 6月16日～18日 長谷寺調査
1890	明治23年	37歳	彼は帰国の途に就く。日本政府はこれまでの労をねぎらい勲三等を授与した。同年、ボストン美術館東洋美術部長に就任し、日本美術の紹介に尽力する。
1896	明治29年	43歳	2度目の来日。東京高等師範学校教授となる。この年、夫人と共に三井寺・法明院を訪ねた。
1897	明治30年	44歳	これまでのフェノロサの調査を元にして、文化財を国宝に指定して保護する「古社寺保存法」が制定!※フェノロサは60カ所以上の社寺、約450品目の美術品を調査した。
1898	明治31年	45歳	3度目の来日。上野で『浮世絵展覧会』を開催し、英文付きの目録を作成し自ら解説を書いた。
1901	明治34年	48歳	『北斎展』開催のため来日。これが最後の日本訪問となった。
1908	明治41年	55歳	ロンドンで開催された国際美術会議にアメリカ代表委員として出席し、滞在中に心臓発作で急死した。享年55歳。戒名は「玄智院明徹諦信居士」。彼は生前に「墓は法明院に」と願っており、翌年、分骨された遺骨が三井寺・法明院に埋葬された。

「奈良の諸君に告ぐ!」(結論) アーネスト・F・フェノロサ 通訳 岡倉天心
今日、この奈良に存在せるところの古物は独り奈良一地方の宝のみならず、実に日本全国の宝なり。いな日本全国の宝のみならず世界において、また得べからざるの至宝なり。故に余は信ず。この古物を保存護持するの大任は、すなわち奈良諸君のよろしく尽すべき義務にして、また奈良諸君の大なる榮譽なりと。この大なる榮譽を保つべき古物を保存護持することを知らず、いたずらに目前の大利にのみ眩惑するが如きの弊あるは、いささかもその理を解せざるところなりとす。

(資料) 浄土真宗 本願寺派 浄教寺 奈良市上三条町18番地 ☎ 0742-22-3483

第27回(通算2470回)例会予告
例会日 令和5年3月30日(木)

第3回クラブデー
「下村会員還暦御祝の会」
kotowa奈良公園にて

◎3月23日は休会です